

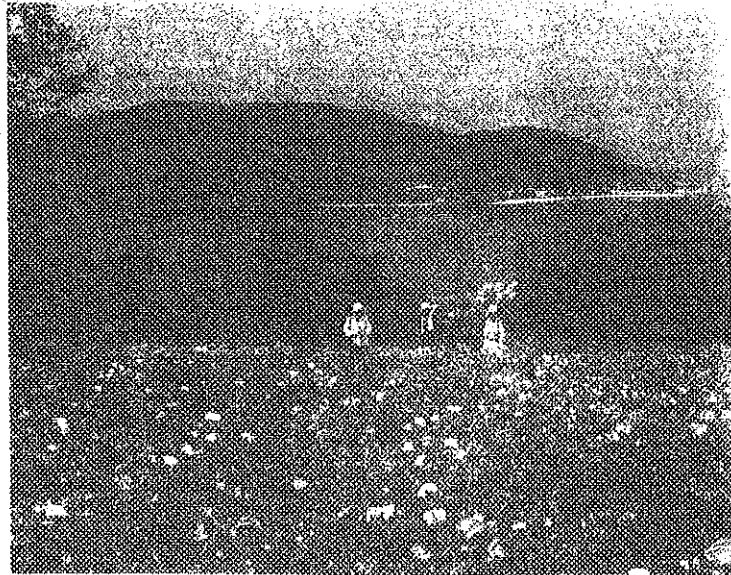
☆☆☆☆能古島を訪ねて☆☆☆☆

「百聞は一見にしかず」とか申しますが、世界規模で物を語る国際化時代でもあり交流を深め視野を広める必要性を感じています。

十人墓を起縁に能古島との交流は久しいが、9月5日(日)総勢33名が能古島での供養祭に参列見聞を広めました。当日は台風13号の余波で心配された天候も次第に回復し、一行のバスは山陽・中国・九州自動車道乗り継ぎ珍事に談笑しながら午前10時過ぎには福岡に到着しました。博多湾に浮かぶ花と緑の島、能古島は福岡側の埋め立て開発も進み、直ぐ眼前に姿を見せる。姪浜—能古島間は市営フェリーで所要時間10分、一日20便あり、大都市を控えしかも日曜日という事もありましたが超満員の乗船客には驚きました。能古島は1,000人余りしか住んでいないが、島の渡船場近辺の整備状況には目覚ましいものがありました。西鉄バスが島内を運行し、キャンプ村・海水浴場が散在しており、何とんでもアイランドパークの存在が大きい。45,000坪の広大な地に四季を通して花が咲き乱れ、防人の里(貸し別荘)や500名収容のパーベキューハウス等自然とアイデアを生かした観光設備、何しろ入場料800円が徴収出来る公園だから頼もしい。

一粒の種が今緑となり花と開く・・・刻まれた農魂碑に経営者の苦勞の跡が偲ばれる。供養祭は中腹の永福寺で勤行旧交を暖める。又、能古島からの福岡の夜景は正に百万ドルの幻想の世界でした。翌日、能古島を後に福岡タワー・福岡ドームを見学し規模の壮大さに圧倒されました。偶々ドームの開閉時に居合わせ、20分を要することとその経費が1,000万円ということ聞き二度びっくり。有意義な訪問を終え無事に帰徳しました。参加者の皆さんお疲れさまでした。

能古島は極めて恵まれた環境にありながらも人口が横這いとのこと、何とも不思議な気がして色々考えさせられました。(石丸 適)



体育館建設について陳情

大津島小学校発足にあたっていくつかの施設整備の要望を市に提出していますが、その中に体育館やプールの建設も含まれています。そこで早急に整備が望まれる施設はいずれか関係者が集い検討を重ねた結果、学校教育は勿論、社会体育の向上やあらゆる交流活動に幅広く活用され地域の活性化に結びつく体育館の建設を優先することに決まり、去る9月17日に高松市議会議員、安達支所長、古城PTA会長、冷泉・松本PTA副会長が同伴して教育委員会に陳情明るい見通しを得ました。ご苦労様でした。皆さんのご支援をお願いします。

老人クラブ交流会

9月20日(月)、須金と大津島地区の老人クラブ交流会が須金の古田フルーツ園で約100名が参加し行われました。最初に全員で梨狩りを楽しんだ後、歓迎会・懇親会に入りました。懇親会では久方ぶりの再会に話も弾み、程よくお酒が廻る頃には唄や・踊りを披露しあう等して一層の交流を深め、春に大津島での再会を約し会を終わりました。

のんた祭り

10月3日(日)、「みんな、まつりにあつ〜にもえてみんかいのんた」をテーマに第44回徳山のんた祭りが行われ、まちは多彩な催しで賑わいました。

この祭りのハイライトであるパレード・踊りに大津島の大津長持ち唄保存会が出演しました。鞆町〜銀南街〜駅前へ向けて、独特の衣装に米俵を担いで長持ち唄に合わせて「お〜お〜そうじゃろうそうじゃろう」と掛け声高く大きく米俵を揺ると沿道の観衆から盛んな

声援が送られ、駅前では日頃の練習の成果を発揮し見事な体の振り・足の運びとユーモラスで楽しい長持ち唄を披露し、詰めかけた観衆から割れんばかりの拍手を受けました。

